

辰巳会全国大会

溝越 祐一

四月二十二日

草々かしこ

頂き有難く拝受致しました。

カメラが良いのか腕が良いのか良く撮れています。有難うございました。来年の夢を見つめました。

木村 敏

太陽鉱工株式会社新築されまし

お伺い致しまして大変御邪魔しましたが、太陽鉱工株式会社や辰巳

会のこと詳細に承り、どちらも御立派な御事業であることに感銘を深く致しました。昨日はまた早速

『たつみ』五十五号をお送り下さり誠に有難う御座いました。いろいろのことがよく解り、また各所に高畠様、西川様、田宮様、柳田様など亡父より聞きましたお名前を発見、大変なつかしく存じました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

先づは取敢えず御礼まで

末筆ながら鈴木会長様にも何卒よろしくご風声の程お願い申し上げます。

『たつみ』五十五号をお送り下さり誠に有難う御座いました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

國廣 五郎

拝啓 益々御清祥の事と御喜び申し上げます。

さて五月二十八日米寿を迎える事となりました処早速御祝詞立派な銀盃御贈り賜り御芳情の程有難く御札申し上げます。家宝と致し末永く保存致す所存であります。

昭和二年金融恐慌以来半世紀以上経過しました今日神戸製鋼ともに元気に生きて来ました。此からも毎日を美しく強く生き長寿を願う次第です。

何時までも御長寿であらん事を願い御札の御挨拶申し上げます。

五月二十二日 勿々

今村 三郎

謹啓 新緑の候 貴会益々御清栄の段お慶び申し上げます。

扱てこの度は由緒ある辰巳会の全国大会に出席させて戴き、誠に名譽であり光榮の至りでした。会

長様、幹事さんの並々ならぬご配慮に心より厚く御礼申し上げます。

宴酣の頃ご丁寧にも藤田幹事さんより遠末の出席者から一言言葉を戴き度いとの事でしたが、咄嗟の事でもあり充分にお礼も申し上げます。

就きましては本誌をお借り致しまして補足させて戴き度いと存じます。

父頼吉は大正九年四月に鈴木商店本店鉄材部に採用せられ、その後日商、日協商事に転じ、又昭和三十五年十月辰巳会発足以来会員にして戴き、昭和五十四年九月に亡くなるまで五十九年の永きに亘る間、会長様はじめ会員の皆々様の格別の御支援、御鞭撻に心より厚く御札申し上げます。

父は鈴木商店とその関係のお仕事をさせて戴きましたが、終始その事を名譽として誇としていつも感謝して人生に悔がなかつた様です。

来年も又参加させて頂きます。

皆様のご健康を心から祈つております。

来年も又参加させて頂きます。

皆様のご健康を心から祈つております。

来年も又参加させて頂きます。

皆様のご健康を心から祈つております。

来年も又参加させて頂きます。

皆様のご健康を心から祈つております。

頼吉 (蓄橋)

辰巳会に出席させて戴き皆様方にお目にかかりますと、父を偲びほんとになつかしく感じられます

ので今後共宜敷くお願ひ申し上げます。

末筆ながら辰巳会の益々のご発展と会長様会員の皆々様の一層の

ご健康ご長寿をお祈り申し上げます。

五月二十四日 敬具

小原多喜子

青葉の翠も美しい五月も終りになりました。先日辰巳会の全国大会に出席させていたゞきありがとうございました。

久し振りに京都を訪づれ二条城も拝観させて戴き有難うございました。

娘のところにまいり翌日は布引の瀧の上にありますハーブ園で遊んでまいりました。私の二十才頃神戸の学校の登山、会社グループとよく再度山や摩耶山、六甲からの有馬ごえなど歩きまわりましたが

神戸の裏山が変つてしまつてゐるのでおどろきました。三宮から元町へと歩き乍ら栄町のお店にいた

頃、先日出席されていた釜崎さんと一緒に毎日歩きまわっていた事を思ひ出しひとしほなつかしく思いました。

来年催されます金子様の五十年祭には是非出席させていただきた

牡丹の花の王たるただ一花

メーデーに祝辞述べ知事若かりし葭切りの声のみ聞きしと云う句友眠る子の掌よりそこ取る風車

が御皆々様益々お元気にてお過しあ遊ばされ何よりに存じます。いつ

も御心におかけいただき貴重な美

しい(たつみ)御送りいただきま

して誠にありがとう御座いました。

早速佛前に供えさせていただきました。厚く厚く御札申し上げま

す。いやが上にもお元気にお暮ら

し遊ばしますよう御祈り申し上げます。

乱筆取急ぎ御札まで申し上げます。御判読下さいませ。

冠省 去る五月二十日の平成四年度辰巳会全国大会の写真御恵送

早春の候 辰巳会御一同様益々

御清祥お慶び申上げます。「たつみ」五十五号四月十一日拝受いたしました。表紙の絵、ほゝえました

く拝見いたしました。新しい商舗に御転遊ばされざかしお忙し

かつたと存じ上げます。

御一同様お労れのなき様念じ上げます。又、私の駄作に貴重なページを頂きありがとうございます。

とりあえずお受け御札まで申上げます。

四月十三日 かしこ

北野 浅美

頼吉 (蓄橋)

辰巳会に出席させて戴き皆様方にお目にかかりますと、父を偲びほんとになつかしく感じられます

ので今後共宜敷くお願ひ申し上げます。

末筆ながら辰巳会の益々のご発展と会長様会員の皆々様の一層の

ご健康ご長寿をお祈り申し上げます。

五月二十四日 敬具

岡田 静子

早春の候 辰巳会御一同様益々

御清祥お慶び申上げます。「たつ

み」五十五号四月十一日拝受いたしました。表紙の絵、ほゝえました

く拝見いたしました。新しい商舗に御転遊ばされざかしお忙し

かつたと存じ上げます。

御一同様お労れのなき様念じ上げます。又、私の駄作に貴重な

ページを頂きありがとうございます。

とりあえずお受け御札まで申上げます。

四月十三日 かしこ

北野 浅美

前略 先日の辰巳会京都大会で

は大変御世話になりました。毎年

年の事乍ら幹事さんのご苦心の程

恐縮の外ございません。厚く御札

申上げます。

来年も又参加させて頂きます。

来年も又参加させて頂きます。

来年も又参加させて頂きます。

来年も又参加させて頂きます。

来年も又参加させて頂きます。

来年も又参加させて頂きます。

来年も又参加させて頂きます。

なりましたが一筆御札まで申し上げます。

かしこ

五月二十九日

小原多喜子

うつとうしい梅雨空もここ二三日は真夏を思わず夏空でございます。

昨日は辰巳会全国大会の写真と私と釜崎さんのスナップ写真をお送りくださいまして有難う御座居ます。

来年の金子様の五十周年祭祝にはぜひ元気で出席させていたゞきたいと楽しみにしております。

乱筆でございますが一筆御札まで申し上げます。かしこ

六月十四日

阿部 孫治

拝復益々御清勝御慶び申し上げます。

京都ブライトンホテル全国大会

は好天に恵まれ盛大裡に終わり一
昨日はその記念写真をお送り下さ
れ有難く受領致しました。厚く御

礼申し上げます。

二伸

会誌「たつみ」誌投稿につきま
しては一度だけでも早く果したい
ものと思つております。

先は御札まで 敬具

六月十四日

末次 英二

拝啓梅雨の季節となりました。

過日の大会一年振り先輩の方々に
お会い出来る機会を得大変楽しう

ございました。解散後金沢一富山
一高山と参り、名古屋経由帰宅致
しました。来年も健康が許せば是非出席致したいと思つています。

御世話様になりました厚く御礼申
し上げます。

六月十四日

阿部 孫治

拝復益々御清勝御慶び申し上げ

ます。

京都ブライトンホテル全国大会

田中 清

拝復 過日京都における全国大
会におきましては実に行き届いた
ご歓待に預りありがとうございました。

した。

この度は亦記念写真やスナップ
写真まで拝受、厚く御礼申し上げ

ます。写真に氏名をご附記下さい
ましたので一層懐しく拝見いたし
ました。

敬白

六月十五日

田中 卓次

前略

先日のたつみ会全国大会の折の
写真御送り頂き有難う御座いまし
た。

厚く御礼申し上げます。

六月十五日

木下清三郎

平成四年度全国大会記念集合写

あじさいの花が美しく咲き始め

ました。先日はお招き頂きました

吉田 春江

身動きもならぬ寄せ墓冬すみれ

夫婦雛はなればなれに流れけり

老の猫恋遂げしごとふるまえり

ゆきずりの旅に出会いひぬ春一番

よきくせの身にはつかざり春炬燭

鶯を聞きもらす妻耳うとく

ひたひたと水呑んでおり猫の夫

口ダク作「老いる人」秋腕を組む

父の忌や探梅こゝも風乾く

永き日や影を伸ばさぬ竜の鬚

金魚買う残る金魚が鼻を打つ

眼が据る釣芋の先赤とんぼ

神花の御降り老杉根を浮かし



西村鍊次郎

拝復 辰巳会全国大会記念写真並にスナップをおとづけ下さいまして誠に有難う存じます。早速アルバムに収めました。厚く御礼申上げます。

六月十八日 敬具

真及びスナップ御送付賜り誠に有
難うございました。

毎々幹部の方々の御苦労の程有
難く厚く御礼申上げます。

大正十五年三月鈴木商店採用、

帝国人絹へ配属、昭和三年三月広

島総務部から大阪江商ビルの本社へ転勤になり同じビルに日商(株)本

社が創立され、市電渡辺橋停留所から出勤した事など昨日今日の様な想出であります。

辰巳会会員年齢番付表に依りま
すと平均年齢以下の八十四才の弱
輩です。皆々様の高齢で御健康振
りを拝見し、毎時も励まされて居
ります。

乍末筆会長様始め皆々の御多幸
を御祈り申し上げ一言御礼込申述
べます。

以上

六月十五日

吉田 春江

身動きもならぬ寄せ墓冬すみれ

夫婦雛はなればなれに流れけり

老の猫恋遂げしごとふるまえり

ゆきずりの旅に出会いひぬ春一番

よきくせの身にはつかざり春炬燭

鶯を聞きもらす妻耳うとく

ひたひたと水呑んでおり猫の夫

口ダク作「老いる人」秋腕を組む

父の忌や探梅こゝも風乾く

永き日や影を伸ばさぬ竜の鬚

金魚買う残る金魚が鼻を打つ

眼が据る釣芋の先赤とんぼ

神花の御降り老杉根を浮かし

椿落つ苔に影踏む懷手

花時計の秒針元旦継ぎあわす

花火師は花火打ち上げ天を見ず

送り火の山ふところに母がいる

ロダン作「老いる人」秋腕を組む

父の忌や探梅こゝも風乾く

永き日や影を伸ばさぬ竜の鬚

金魚買う残る金魚が鼻を打つ

眼が据る釣芋の先赤とんぼ

神花の御降り老杉根を浮かし